新春メッセージ

創薬アプローチや市場が大きく変化する中、
真のイノベーションを起こし、新たな道を探る

代表取締役会長　最高経営責任者
永山 治

明けましておめでとうございます。

新たな中期経営計画「IBI 18」がスタートした2016年は、二つの製品[1)]に対するFDAの画期的治療薬指定、独自の抗体改変技術を用いた二つの新薬候補品[2)]のライセンスアウト、将来の成長ドライバーとなる重要な開発品の着実な進展など、特に研究開発面で大きな成果を挙げることができました。神奈川県横浜市での事業用地購入、大阪大学免疫学フロンティア研究センター（IFReC）との総額100億円規模の包括連携契約の締結など、将来の成長に向けた基盤強化も進みました。

また2016年は、特例拡大再算定に始まり、消費増税の再延期による社会保障費財源の一層の逼迫や高額薬剤が社会的に大きな関心を集めた年でした。医療費抑制とイノベーションに対する評価の両立は、今や世界共通の課題です。イノベーションで世界の医療と人々の健康への貢献を目指す立場として、その意義を社会に伝える努力を続けることへの責任を改めて認識しました。

2017年は、成長ドライバーであるエミシズマブ、アテゾリズマブを最優先に、経営資源のさらなる集中投資を行っていきます。研究面では、「IBI 18」の重点テーマである抗体改変プロジェクトの連続創出をさらに推進するとともに、次世代のコア技術と位置付ける中分子創薬技術の確立も進めていきます。営業面では、変化する医療環境に合わせた、新たなソリューションの提供体制が不可欠です。地域医療の役割がいっそう高まり、市場が大きく変化する中で、革新的な医薬品をどのように提供し、安全性をいかに確保していくのか。新しいチャレンジが当社を待ち受けています。

本年10月、ロシュ社との戦略的アライアンス締結から15年を迎えます。このユニークなアライアンスは、我々が連続的なイノベーションを通じ、世界の医療と人々の健康にさらに貢献するための土台です。アライアンスを最大限に活かし、「グローバルトップクラスの競争力獲得・発揮」と「成長加速への選択と集中」を進めることで、今まで以上の成果を挙げていくべく、従業員一丸となり邁進していく所存です。

以　上

1)　「アレセンサ®」：ALK陽性非小細胞肺がんの一次治療
　　「アクテムラ®」：巨細胞性動脈炎
2)　SA237（ロシュ社に導出）、nemolizumab（Galderma社、マルホ社に導出）

中外製薬株式会社 広報IR部　〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
メディアリレーションズグループ　TEL: (03)3273-0881　E-mail: pr@chugai-pharm.co.jp
インベスターリレーションズグループ　TEL: (03)3273-0554　E-mail: ir@chugai-pharm.co.jp